鹿児島県立博物館研究報告　第37号：45－46，2018

# シベリアイタチの種子島からの記録

池　俊人

# A Record of the Siberian Weasel *Mustela sibirica* (Carnivora: Mustelidae) from Tanegashima Island, Kagoshima Prefecture

Toshihito IKE

## はじめに

シベリアイタチ *Mustela sibirica* は食肉目イタチ科イタチ属に属する動物で，ヨーロッパ東部から東アジアに広く分布する（今泉，1960；佐々木，1992；佐々木，1996）。国内での自然分布は対馬だけだが，1930年頃に本州に，1945年頃に九州に侵入して定着したと考えられている（佐々木，1992）。なお，朝鮮半島と対馬の集団は，亜種チョウセンイタチ *Mustela sibirica coreana* とされている（今泉，1960；佐々木，1992；佐々木，1996）。

鹿児島県内における本種の分布についての情報は少ない。鹿児島県立博物館の収蔵資料の中に，県本土で採集された本種の剥製標本が複数存在している。このことから，本種が在来種のニホンイタチと同様に県本土に広く分布していることが分かる。鹿児島県（2017）も本種の分布を県本土としているが，県内の島嶼での本種の分布は記されていない。

種子島のイタチ属に関する情報としては，これまで在来種のニホンイタチ（亜種コイタチ）が生息していることしか知られていなかった（鮫島，1988；森田・尾形，1997）。その後，亜種としての独立性には不明な点が多いとされ（塩谷，2003），最近では種子島・屋久島の集団も亜種コイタチではなく，ニホンイタチとして取り扱われることが多くなっている（岡田・船越，2016；鹿児島県，2017）。

今回，種子島で得られたイタチ属2体を調べたところ，うち1体がシベリアイタチであることを確認できたので，以下にその記録を報告する。

## 採集個体の記録

種子島で得られたイタチ属2体のうち，尾が長くシベリアイタチと思われる1体を剥製標本にし，尾が短くニホンイタチと思われる1体を冷凍保存した（図1，図2）。その後，ともに頭胴長と尾長の測定を行った。各個体の収集データと測定結果を，表1と表2に示す。

同定にあたっては，今泉（1960）や佐々木（1992；1996）を参考にして，尾率（尾長 / 頭胴長）がシベリアイタチでは0.50以上，ニホンイタチでは0.50以下であることを判断材料とした。

**図1．種子島で得られたシベリアイタチ *Mustela sibirica* の剥製標本**
鹿児島県立博物館標本番号 MA01600003

**図2．種子島で得られたニホンイタチ *Mustela itatsii***
鹿児島県立博物館資料受領番号 M16-04

鹿児島県立博物館：〒892-0853　鹿児島市城山町1－1

**表1. 剥製標本の収集データと測定結果**

| | |
|---|---|
| 標準和名 | シベリアイタチ |
| 標本番号 | MA01600003 |
| 採集日 | 2016年10月27日 |
| 採集地 | 中種子町浜津脇 |
| 採集者 | 川添隆志 |
| 採集時の状況 | 国道58号線で轢死 |
| 性　別 | ♂ |
| 体　重 | 460 g |
| 頭胴長 | 250 mm(剥製標本での測定) |
| 尾　長 | 134 mm(剥製標本での測定) |
| 尾　率 | 0.54 |

**表2. 冷凍保存個体の収集データと測定結果**

| | |
|---|---|
| 標準和名 | ニホンイタチ |
| 資料受領番号 | M16-04 |
| 採集日 | 2016年11月2日 |
| 採集地 | 西之表市住吉 |
| 採集者 | 川添隆志 |
| 採集時の状況 | 今能野で轢死 |
| 性　別 | ♂ |
| 体　重 | 487 g |
| 頭胴長 | 285 mm |
| 尾　長 | 130 mm |
| 尾　率 | 0.46 |

測定の結果，2体とも性別は♂で体重もほぼ同じだったのに対し，尾率には明瞭な差異が認められた。表1の標本は尾率が0.50を超えたことからシベリアイタチと判断し，表2の個体は尾率が0.50を下回ったことからニホンイタチと判断した。

## 所見

今回，シベリアイタチが種子島に生息することが確認された。しかし，本種の島内での生息状況や，在来種ニホンイタチへの影響など，不明なことは多い。種子島および他の島嶼におけるイタチ属について今後も資料を収集し，さらに情報を蓄積する必要があると思われる。

## 謝辞

資料の収集にあたって多大な協力をいただいた川添隆志氏と高山真由美氏に，厚く感謝申し上げる。

## 引用文献

今泉吉典(1960)現色日本哺乳類図鑑．196pp．保育社，大阪．

鹿児島県(2017)鹿児島県外来種リスト．59pp．鹿児島県環境林務部自然保護課．

森田忠義・尾形之善(1997)種子島の動物・哺乳類・両生類および爬虫類について．自然愛護(23)：12-16．鹿児島県自然愛護協会．

岡田滋・船越公威(2016)哺乳類．改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物　動物編―鹿児島県レッドデータブック2016（鹿児島県環境林務部自然保護課），23，一般財団法人鹿児島県環境技術協会，鹿児島．

鮫島正道(1988)熊毛の哺乳類相．鹿児島の自然事業調査報告書Ⅴ，89-95．鹿児島県立博物館．

佐々木浩(1992)都市に生きられるか－チョウセンイタチ、ニホンイタチ．週刊朝日百科，動物たちの地球 第46号 哺乳類Ⅰ，312 - 313．朝日新聞社．

佐々木浩(1996)ニホンイタチとチョウセンイタチ．日本動物大百科 第1巻 哺乳類Ⅰ，128-131．平凡社，東京．

塩谷克典(2003)コイタチ．鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編―鹿児島県レッドデータブック―（鹿児島県環境生活部環境保護課），35，財団法人鹿児島県環境技術協会，鹿児島．